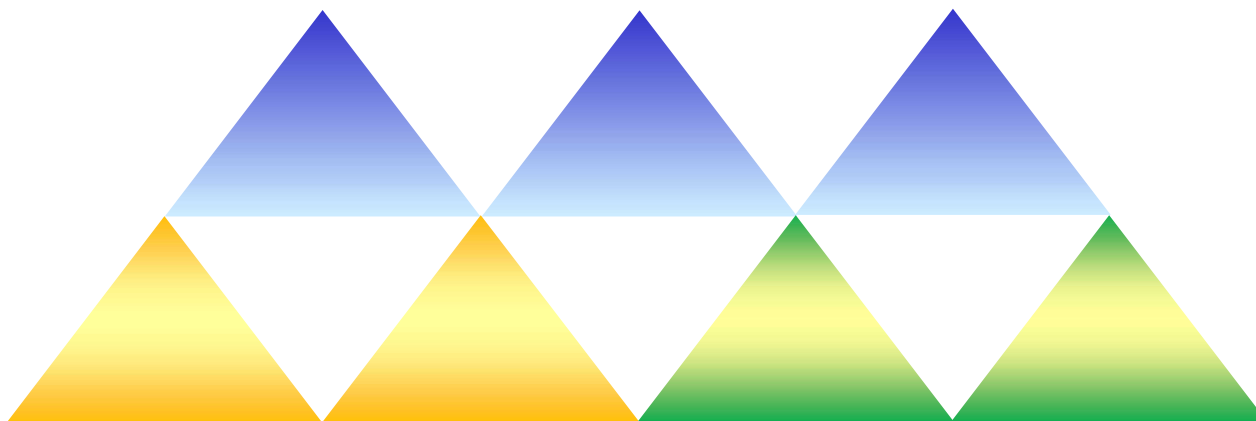


A decorative graphic consisting of a row of four inverted triangles. The first two are green with a yellow-to-green gradient, and the last two are yellow with a yellow-to-orange gradient. Below this row is another row of four inverted triangles, all in a blue-to-purple gradient.

2014年3月期第3四半期決算の概要

東レ株式会社
2014年2月6日



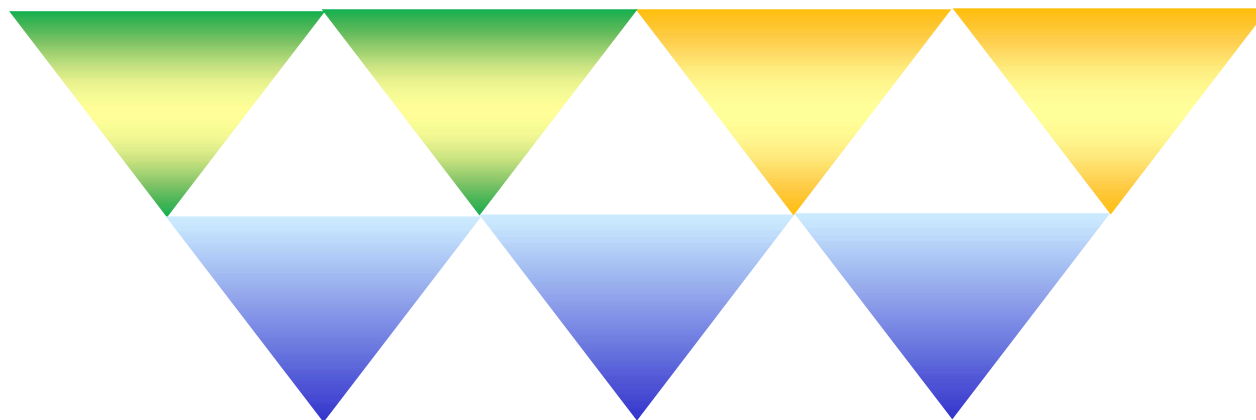
目次

I. 2014年3月期第3四半期決算の概要

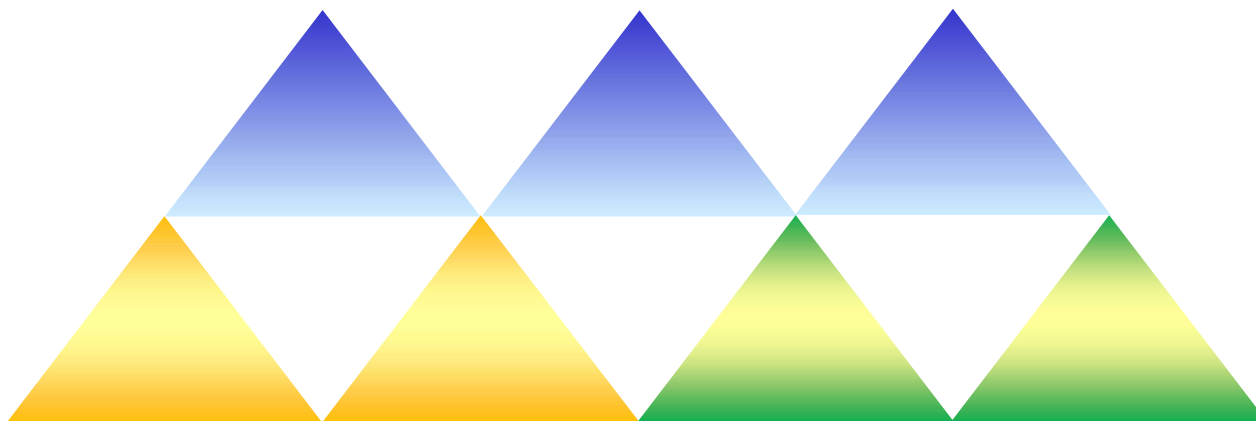
2014年3月期第3四半期連結損益概要	(P3)
営業外収支	(P4)
特別損益	(P5)
資産・負債・純資産	(P6)
設備投資額・減価償却費・研究開発費	(P7)
セグメント別売上高・営業利益	(P8)
セグメント別業績	(P9-16)
営業利益増減要因分析(第3四半期累計期間)	(P17)
主要子会社収益状況(第3四半期累計期間)	(P18)
セグメント別営業利益 2Qvs3Q比較	(P19)

II. 2014年3月期連結業績見通し

2014年3月期連結業績見通し	(P21)
セグメント別業績見通し	(P22)
セグメント別営業利益の前回見通しとの差異	(P23)



I . 2014年3月期第3四半期決算の概要



2014年3月期第3四半期連結損益概要

億円

	13年3月期 第3四半期 (10~12月)	14年3月期 第3四半期 (10~12月)	増減	13年3月期 第3四半期累計 (4~12月)	14年3月期 第3四半期累計 (4~12月)	増減
売上高	4,197	4,971	+774 (+18.4%)	11,734	13,508	+1,774 (+15.1%)
売上原価	3,382	4,049	+667 (+19.7%)	9,431	10,936	+1,505 (+16.0%)
売上総利益	814	921	+107 (+13.2%)	2,303	2,573	+270 (+11.7%)
(売上高総利益率)	19.4%	18.5%	-0.9 ポイント	19.6%	19.0%	-0.6 ポイント
販売費及び 一般管理費	568	616	+48 (+8.5%)	1,690	1,824	+135 (+8.0%)
(売上高販管費比率)	13.5%	12.4%	-1.1 ポイント	14.4%	13.5%	-0.9 ポイント
営業利益	247	306	+59 (+23.9%)	614	749	+135 (+22.0%)
(売上高営業利益率)	5.9%	6.1%	+0.3 ポイント	5.2%	5.5%	+0.3 ポイント
営業外収支	11	17	+5	25	39	+14
経常利益	258	322	+64 (+25.0%)	638	788	+149 (+23.4%)
特別損益	▲ 11	▲ 14	-3	▲ 78	▲ 41	+37
税前提利益	247	309	+61 (+24.8%)	560	747	+186 (+33.3%)
四半期純利益	173	201	+28 (+16.1%)	373	494	+121 (+32.6%)

	(13/3 3Q)	→	(14/3 3Q)	(13/3 3Q累計)	→	(14/3 3Q累計)
為替レート <円/US\$> 期中平均	81.2	→	100.5	80.0	→	99.4
期末	86.6	→	105.4			
<円/ユーロ> 期中平均	105.3	→	136.7	102.2	→	132.2
期末	114.7	→	145.1			
原油価格 <US\$/バレル>						
(DUBAI FOB) 期中平均	107.5	→	106.8	106.7	→	104.6

(注)3月期決算会社は10~12月の業績、12月期決算会社は7~9月の業績を連結

営業外収支

億円

	13年3月期 第3四半期 (10~12月)	14年3月期 第3四半期 (10~12月)	増減	13年3月期 第3四半期累計 (4~12月)	14年3月期 第3四半期累計 (4~12月)	増減
営業外収益	45	49	+4	117	136	+19
受取利息及び配当金	9	12	+3	29	32	+4
持分法による投資利益	18	22	+3	51	59	+8
雑収入	17	15	-2	37	44	+7
営業外費用	▲ 34	▲ 32	+1	▲ 92	▲ 97	-5
支払利息	▲ 14	▲ 12	+2	▲ 42	▲ 38	+4
雑損失	▲ 20	▲ 20	-0	▲ 50	▲ 59	-9
営業外収支	11	17	+5	25	39	+14
金融収支	▲ 4	0	+4	▲ 13	▲ 5	+8

注) 収益はプラス、費用はマイナス(▲)で表示

特別損益

億円

	13年3月期 第3四半期 (10~12月)	14年3月期 第3四半期 (10~12月)	増減	13年3月期 第3四半期累計 (4~12月)	14年3月期 第3四半期累計 (4~12月)	増減
特別利益	7	2	-5	8	74	+67
有形固定資産売却益	5	2	-3	7	4	-2
投資有価証券売却益	1	0	-0	1	2	+1
受取保険金	-	▲ 0	-0	0	68	+68
その他	1	-	-1	0	0	+0
特別損失	▲ 17	▲ 16	+1	▲ 86	▲ 115	-30
有形固定資産処分損	▲ 15	▲ 15	-1	▲ 29	▲ 32	-3
減損損失	-	-	-	-	▲ 82	-82
災害による損失	▲ 1	-	+1	▲ 19	-	+19
投資有価証券評価損	-	▲ 0	-0	▲ 34	▲ 0	+34
その他	▲ 1	▲ 0	+1	▲ 4	▲ 1	+2
ネット特別損益	▲ 11	▲ 14	-3	▲ 78	▲ 41	+37

注) 収益はプラス、費用はマイナス(▲)で表示

資産・負債・純資産

億円

	13年3月末	13年12月末	増減
資産合計	17,319	19,313	+1,994
流動資産	7,967	9,054	+1,087
有形固定資産	6,272	6,703	+431
無形固定資産	426	410	-16
投資その他	2,653	3,146	+493

	13年3月末	13年12月末	増減
負債合計	9,533	10,352	+819
流動負債	5,503	5,538	+35
固定負債	4,030	4,814	+784
純資産合計	7,786	8,961	+1,175
有利子負債残高	5,320	5,747	+427
D/Eレシオ	0.73	0.69	-0.05

設備投資額・減価償却費・研究開発費

億円

	13年3月期 第3四半期累計 (4~12月)	14年3月期 第3四半期累計 (4~12月)	増減	特記事項
設備投資額	676	700	+24	東レ:127、連結子会社:573
減価償却費 ー)	481	571	+90	東レ:237、連結子会社:334
振替・除却等	32	301	+270	
有形固定資産増減	227	431	+204	
研究開発費	401	416	+14	

主な設備投資:

TMQ (Toray Medical (Qingdao) Co., Ltd.) :人工腎臓生産設備

CFE (Toray Carbon Fibers Europe S.A.)ほか:炭素繊維生産設備

TTCE (Toray Textiles Central Europe s.r.o.):水なし平版生産設備

セグメント別売上高・営業利益

億円

	売上高			営業利益		
	13年3月期 第3四半期 (10~12月)	14年3月期 第3四半期 (10~12月)	増減	13年3月期 第3四半期 (10~12月)	14年3月期 第3四半期 (10~12月)	増減
繊維	1,894	2,331	+437 (+23.1%)	162	174	+12 (+7.3%)
プラスチック・ケミカル	964	1,181	+217 (+22.5%)	42	42	+1 (+1.5%)
情報通信材料・機器	565	626	+61 (+10.7%)	63	65	+2 (+3.0%)
炭素繊維複合材料	197	298	+100 (+50.9%)	13	42	+29 (+218.6%)
環境・エンジニアリング	406	339	-67 (-16.4%)	▲ 3	5	+8 (-)
ライフサイエンス	141	163	+23 (+16.1%)	21	30	+9 (+44.4%)
その他	29	32	+3 (+10.4%)	3	5	+2 (+75.0%)
計	4,197	4,971	+774 (+18.4%)	300	362	+62 (+20.7%)
調整額				▲ 53	▲ 56	-3
連結	4,197	4,971	+774 (+18.4%)	247	306	+59 (+23.9%)

	売上高			営業利益		
	13年3月期 第3四半期累計 (4~12月)	14年3月期 第3四半期累計 (4~12月)	増減	13年3月期 第3四半期累計 (4~12月)	14年3月期 第3四半期累計 (4~12月)	増減
繊維	4,783	5,682	+899 (+18.8%)	347	415	+68 (+19.6%)
プラスチック・ケミカル	2,914	3,461	+548 (+18.8%)	147	133	-14 (-9.8%)
情報通信材料・機器	1,776	1,845	+69 (+3.9%)	159	173	+14 (+8.7%)
炭素繊維複合材料	563	819	+256 (+45.5%)	55	113	+58 (+104.9%)
環境・エンジニアリング	1,187	1,170	-17 (-1.5%)	▲ 3	11	+14 (-)
ライフサイエンス	411	429	+19 (+4.6%)	51	49	-2 (-4.3%)
その他	100	101	+1 (+1.2%)	9	12	+2 (+26.7%)
計	11,734	13,508	+1,774 (+15.1%)	765	905	+140 (+18.3%)
調整額				▲ 152	▲ 156	-5
連結	11,734	13,508	+1,774 (+15.1%)	614	749	+135 (+22.0%)

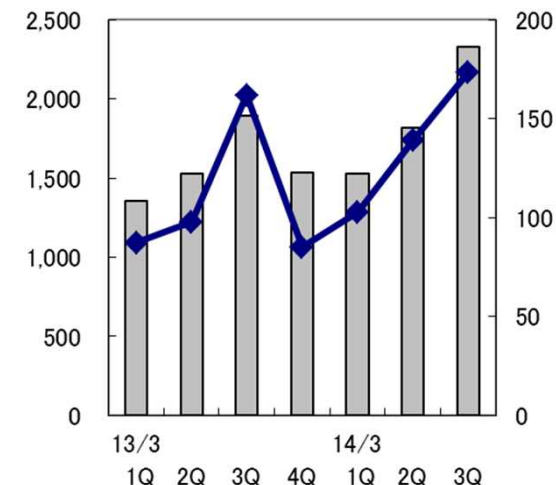
セグメント別業績(繊維)

単位: 億円

		3Q(10~12月)				3Q累計(4~12月)			
		13年 3月期	14年 3月期	増減		13年 3月期	14年 3月期	増減	
売上高	東レ	233	264	+32	(+13.6%)	739	809	+70	(+9.5%)
	国内	1,139	1,293	+154	(+13.5%)	2,544	2,860	+316	(+12.4%)
	海外	523	774	+251	(+48.0%)	1,500	2,013	+513	(+34.2%)
	計	1,894	2,331	+437	(+23.1%)	4,783	5,682	+899	(+18.8%)
営業利益	東レ	31	29	-2	(-7.2%)	103	114	+11	(+11.0%)
	国内	41	41	+1	(+1.7%)	88	93	+5	(+5.6%)
	海外	61	88	+27	(+43.6%)	141	211	+69	(+48.9%)
	修正	28	15	-13		15	▲ 2	-17	
	計	162	174	+12	(+7.3%)	347	415	+68	(+19.6%)

売上高
＜棒グラフ＞

営業利益
＜線グラフ＞
(億円)



3Q(10~12月)

東レ : 衣料用途は機能性秋冬物衣料用途が堅調に推移したが、その他一般衣料用途の販売は回復の兆しはあるものの弱含みで推移。なお、円高修正の影響もあり輸出は堅調。産業用途は、自動車関連用途を中心に回復基調で推移。

国内子会社: 商事子会社が、堅調に推移。

海外子会社: 中国の縫製品事業及び東南アジアや中国のテキスタイル子会社が衣料用途や産業用途の拡販と高付加価値品へのシフトを推進し、堅調に推移。

3Q累計 (4~12月)

国内の衣料用途では、機能性衣料用途向けの販売が堅調に推移したが、その他一般衣料用途の販売は回復の兆しはあるものの弱含みで推移。一方、円高修正の影響もあり輸出は回復基調。産業用途は、自動車関連用途向けをはじめ需要が回復基調で推移。

海外では、欧州の景気不振や中国内需の伸び悩みなど、依然厳しい状況が続いたが、東南アジアや中国のテキスタイル子会社が拡販と高付加価値品へのシフトを推進。なお、2011年10月に発生したタイ洪水の影響が前年同期には残っていたが、当期は生産・販売ともに回復し業績の改善に寄与した。

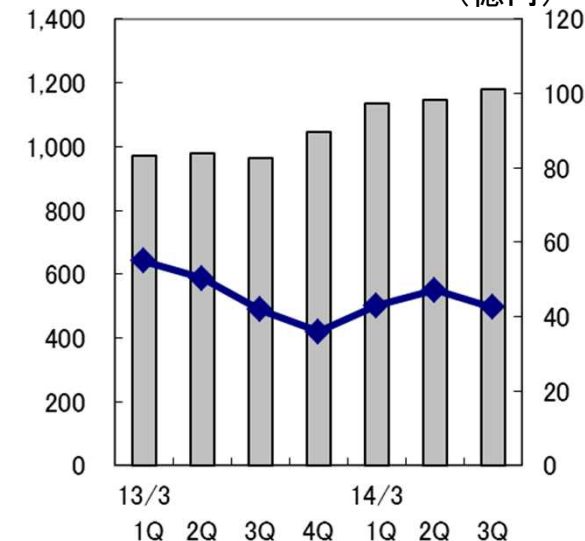
セグメント別業績(プラスチック・ケミカル)

単位: 億円

		3Q(10~12月)				3Q累計(4~12月)			
		13年 3月期	14年 3月期	増減		13年 3月期	14年 3月期	増減	
売上高	東レ	174	210	+37	(+21.1%)	546	621	+75	(+13.8%)
	国内	352	461	+109	(+31.1%)	1,024	1,353	+329	(+32.2%)
	海外	439	510	+71	(+16.2%)	1,344	1,487	+143	(+10.6%)
	計	964	1,181	+217	(+22.5%)	2,914	3,461	+548	(+18.8%)
営業利益	東レ	▲ 6	▲ 7	-1	(-)	4	▲ 11	-15	(-)
	国内	15	21	+6	(+39.5%)	49	61	+11	(+23.1%)
	海外	32	29	-3	(-8.7%)	90	82	-8	(-8.9%)
	修正	0	▲ 1	-1		3	1	-3	
	計	42	42	+1	(+1.5%)	147	133	-14	(-9.8%)

売上高
棒グラフ

営業利益
線グラフ
(億円)



3Q(10~12月)

樹脂 : 国内では、自動車生産の回復に伴い、自動車関連用途向け販売が堅調に推移。一方で、電機や一般産業用途向けは弱含みで推移。また、円高修正に伴う原料価格上昇の影響を受けた。海外では、北米や中国、東南アジアで自動車関連用途向けを中心に販売が拡大。

フィルム: フィルム事業は、国内ではハイブリッドカー用コンデンサー向けなどの販売は堅調に推移したが、全般的には国内外ともに需要は低調に推移し、価格競争が継続。

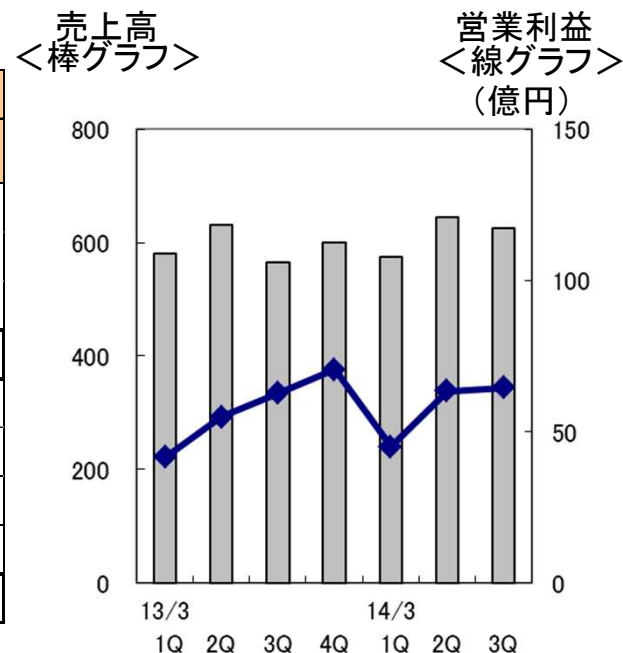
3Q累計 (4~12月)

樹脂事業では、国内の自動車関連用途向け販売は堅調に推移したが、電機や一般産業用途向けは弱含みで推移。また、円高修正に伴う原料価格上昇の影響を受けた。海外では、北米や中国、東南アジアで自動車関連用途向けを中心に販売が拡大。フィルム事業では、国内ではハイブリッドカー用コンデンサー向けなどの販売は堅調に推移したが、全般的には国内外ともに需要は低調に推移し、価格競争が継続。また、市況回復と海外ビジネスの好調を背景に、商事子会社が取扱高を拡大。

セグメント別業績(情報通信材料・機器)

単位: 億円

		3Q(10~12月)				3Q累計(4~12月)			
		13年 3月期	14年 3月期	増減		13年 3月期	14年 3月期	増減	
売上高	東レ	203	196	-7	(-3.5%)	666	598	-68	(-10.2%)
	国内	182	203	+21	(+11.6%)	570	566	-4	(-0.6%)
	海外	180	226	+47	(+25.9%)	540	681	+141	(+26.0%)
	計	565	626	+61	(+10.7%)	1,776	1,845	+69	(+3.9%)
営業利益	東レ	29	31	+2	(+6.2%)	89	81	-8	(-9.2%)
	国内	16	17	+1	(+4.7%)	40	39	-1	(-2.6%)
	海外	26	25	-1	(-2.5%)	60	77	+17	(+27.6%)
	修正	▲ 8	▲ 8	+0		▲ 30	▲ 24	+6	
	計	63	65	+2	(+3.0%)	159	173	+14	(+8.7%)



3Q(10~12月)

薄型テレビ用大型液晶パネル向けフィルム及びフィルム加工品は、テレビの需要低迷により低調に推移。また、スマートフォンやタブレット端末など中・小型ディスプレイ向け製品は、最終製品の生産調整の影響を受け、調整局面を迎えた。一方で、新製品は順調に出荷を拡大。

3Q累計 (4~12月)

薄型テレビ用大型液晶パネル向けフィルム及びフィルム加工品は、テレビの需要低迷により調整局面を迎えた。スマートフォンやタブレット端末など中・小型ディスプレイ向け製品の販売は上期には堅調に推移したが、第3四半期には最終製品の生産調整の影響により需要は低調となった。海外では、韓国のフィルム及びフィルム加工品関連子会社の販売が上期は好調に推移したものの、第3四半期には液晶パネル関連の市況低迷を受けて低調に推移。なお、全般的に最終製品の価格低下の影響などにより、価格競争が継続。

情報通信材料・機器セグメントの売上高の詳細

【サブセグメント別売上高推移】

単位：億円

	13年3月期第3四半期 (10~12月)		14年3月期第3四半期 (10~12月)		
	売上高	比率	売上高	比率	増減率
ディスプレイ材料	198	35%	221	35%	+12%
電子部品・半導体・回路材料	241	43%	268	43%	+11%
記録材料	75	13%	78	12%	+4%
機器他	51	9%	59	9%	+16%
情報通信材料・機器セグメント合計	565		626		+11%
	13年3月期第3四半期累計 (4~12月)		14年3月期第3四半期累計 (4~12月)		
	売上高	比率	売上高	比率	増減率
ディスプレイ材料	602	34%	663	36%	+10%
電子部品・半導体・回路材料	721	41%	806	44%	+12%
記録材料	235	13%	231	13%	-2%
機器他	218	12%	145	8%	-33%
情報通信材料・機器セグメント合計	1,776		1,845		+4%

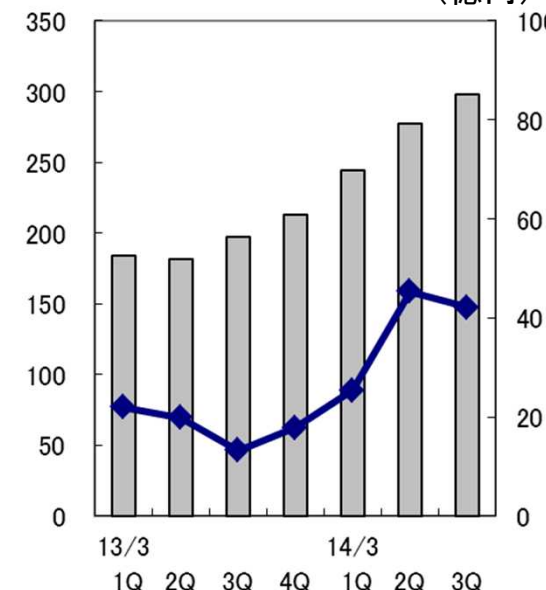
セグメント別業績(炭素繊維複合材料)

単位: 億円

		3Q(10~12月)			3Q累計(4~12月)		
		13年 3月期	14年 3月期	増減	13年 3月期	14年 3月期	増減
売上高	東レ	153	201	+48 (+31.4%)	458	632	+174 (+37.9%)
	国内	106	141	+35 (+33.4%)	316	399	+83 (+26.3%)
	海外	146	255	+109 (+74.8%)	441	674	+233 (+52.7%)
	修正	▲ 207	▲ 299	-92	▲ 652	▲ 885	-233
	計	197	298	+100 (+50.9%)	563	819	+256 (+45.5%)
営業利益	東レ	2	27	+25 (+1306.7%)	28	69	+41 (+147.2%)
	国内	1	2	+0 (+32.8%)	4	6	+2 (+62.5%)
	海外	10	18	+8 (+80.0%)	33	49	+16 (+48.5%)
	修正	▲ 0	▲ 5	-5	▲ 9	▲ 11	-1
	計	13	42	+29 (+218.6%)	55	113	+58 (+104.9%)

売上高
＜棒グラフ＞

営業利益
＜線グラフ＞
(億円)



本セグメントでは、日米欧3拠点のグローバルオペレーションの規模が大きく、実態を正しく表すために、内部売上高の消去を外枠で記載しています。

3Q(10~12月)

炭素繊維及び中間加工品(プリプレグ)の販売は、航空宇宙用途や圧縮天然ガスタンク向け等の環境・エネルギー関連用途が堅調に推移。また、成形品事業では、ノートブック型パソコンの筐体が堅調に推移。

3Q累計 (4~12月)

航空機需要の拡大や圧縮天然ガスタンクなど環境・エネルギー関連需要の拡大が進む中で、航空宇宙用途や一般産業用途向けに炭素繊維及び中間加工品(プリプレグ)の販売が堅調に推移。また、成形品事業ではノートブック型パソコン用に使用されている、高い強度を持ち軽量化を実現できる炭素繊維強化プラスチック製筐体の販売が拡大。

炭素繊維複合材料セグメントの売上高の詳細

【サブセグメント別売上高推移】

単位：億円

	13年3月期第3四半期 (10~12月)		14年3月期第3四半期 (10~12月)		
	売上高	比率	売上高	比率	増減率
航空宇宙	74	38%	149	50%	+100%
スポーツ	32	16%	40	13%	+25%
一般産業	91	46%	109	37%	+19%
炭素繊維複合材料計	197		298		+51%

	13年3月期第3四半期累計 (4~12月)		14年3月期第3四半期累計 (4~12月)		
	売上高	比率	売上高	比率	増減率
航空宇宙	229	41%	401	49%	+75%
スポーツ	87	15%	106	13%	+22%
一般産業	247	44%	312	38%	+26%
炭素繊維複合材料計	563		819		+45%

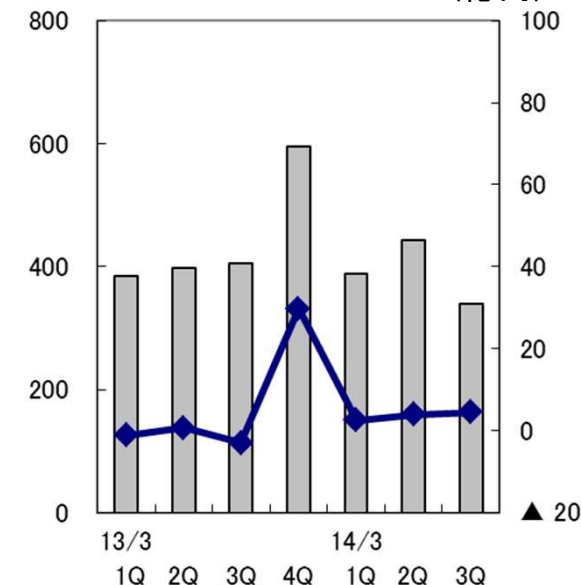
セグメント別業績(環境・エンジニアリング)

単位:億円

		3Q(10~12月)				3Q累計(4~12月)			
		13年 3月期	14年 3月期	増減		13年 3月期	14年 3月期	増減	
売上高	東レ	22	32	+10	(+46.6%)	57	79	+22	(+39.1%)
	国内	373	289	-84	(-22.4%)	1,096	1,042	-53	(-4.9%)
	海外	11	18	+7	(+60.6%)	35	49	+14	(+40.0%)
	計	406	339	-67	(-16.4%)	1,187	1,170	-17	(-1.5%)
営業利益	東レ	▲ 6	2	+8	(-)	▲ 20	4	+24	(-)
	国内	2	2	-1	(-26.5%)	16	0	-16	(-97.7%)
	海外	1	1	+0	(+10.4%)	▲ 2	2	+4	(-)
	修正	0	1	+1		2	5	+2	
	計	▲ 3	5	+8	(-)	▲ 3	11	+14	(-)

売上高
＜棒グラフ＞

営業利益
＜線グラフ＞
(億円)



3Q(10~12月)

水処理事業 : 水処理膜事業は、中東向け逆浸透膜などの出荷が堅調に推移したことに加え、コストダウンの取り組みを徹底。

国内 : 建設・不動産子会社の完成物件が前年同期に比べて減少。

3Q累計 (4~12月)

水処理膜事業では、世界経済の先行きに不透明感が残る中で市場は本格回復には至っていないものの、当社では、中東向け逆浸透膜などの出荷が堅調に推移。国内子会社では、エンジニアリング子会社のプラント工事の進捗が低調に推移。

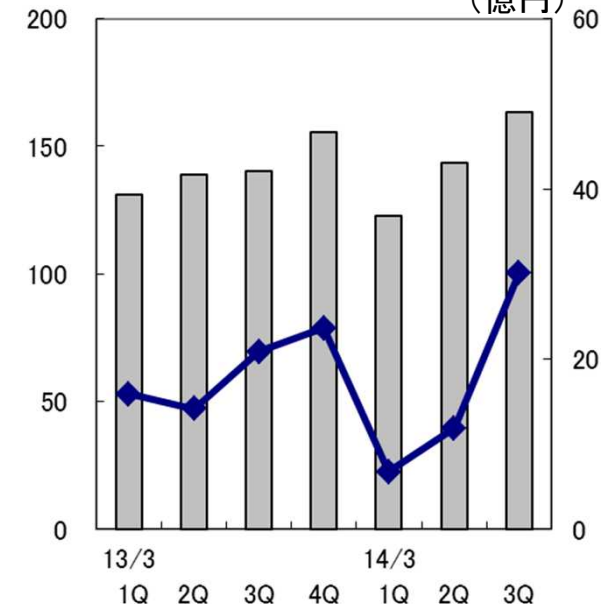
セグメント別業績(ライフサイエンス)

単位: 億円

		3Q(10~12月)				3Q累計(4~12月)			
		13年 3月期	14年 3月期	増減		13年 3月期	14年 3月期	増減	
売上高	東レ	39	59	+20	(+52.4%)	112	128	+16	(+14.1%)
	国内	98	91	-6	(-6.4%)	290	272	-18	(-6.2%)
	海外	4	13	+9	(+203.8%)	9	30	+21	(+242.4%)
	計	141	163	+23	(+16.1%)	411	429	+19	(+4.6%)
営業利益	東レ	13	29	+17	(+132.7%)	38	42	+4	(+9.6%)
	国内	4	1	-3	(-82.4%)	12	7	-5	(-38.2%)
	海外	▲1	0	+1	(-)	▲1	▲0	+1	(-)
	修正	5	▲0	-5		2	0	-2	
	計	21	30	+9	(+44.4%)	51	49	-2	(-4.3%)

売上高
＜棒グラフ＞

営業利益
＜線グラフ＞
(億円)



3Q(10~12月)

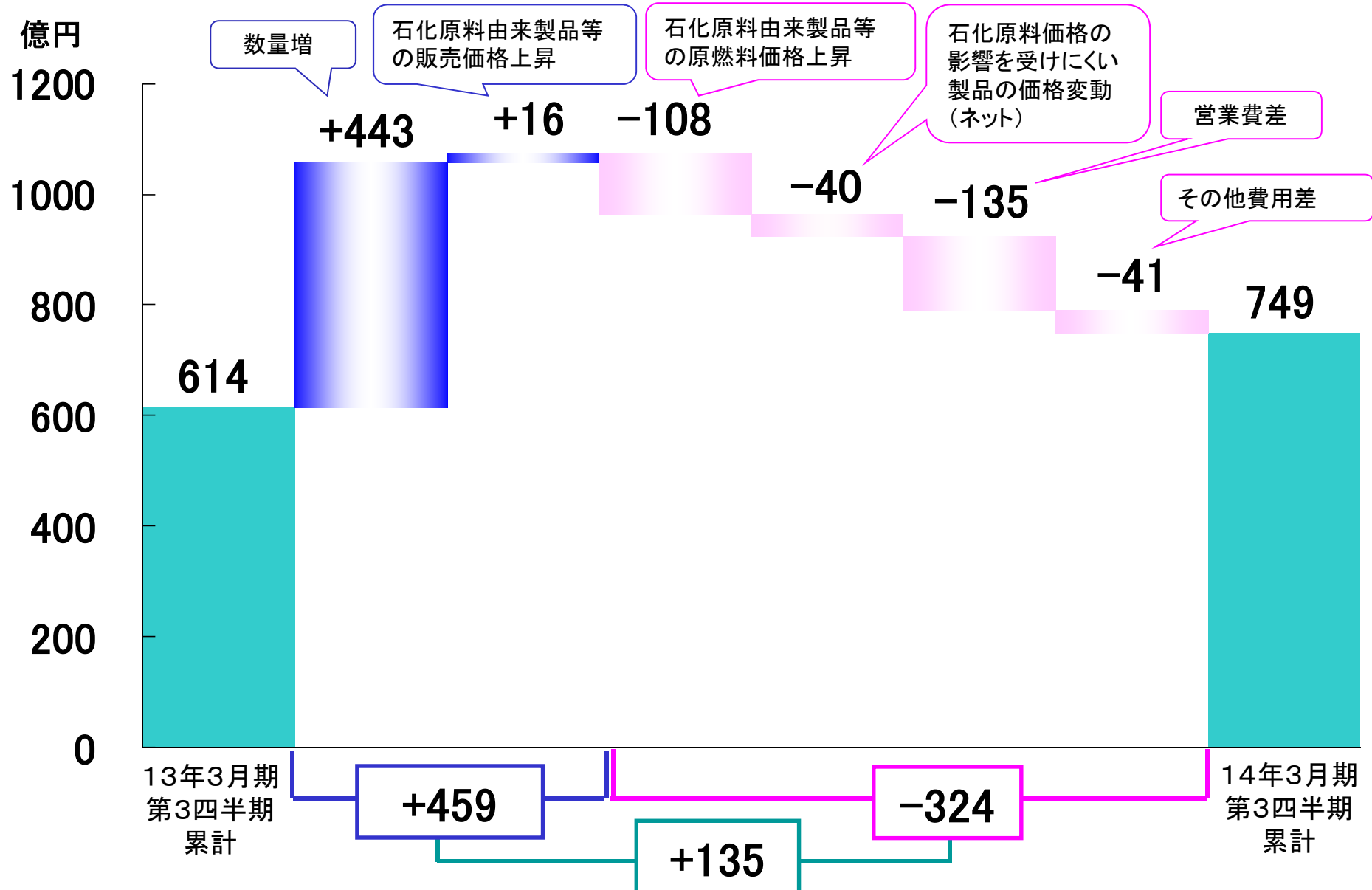
医薬品では、血液透析患者向けの経口そう痒症改善剤レミッチ[®]*の販売が堅調に推移したが、その他の医薬品は競合激化の影響を受けた。また、ライセンス料収入が増加した。医療機器では、PMMA膜人工腎臓フィルトレーザー[®]、ポリスルホン膜人工腎臓トレスルホン[®]の販売が、国内向けに加え輸出も堅調だったが、透析装置は低調に推移。

3Q累計 (4~12月)

医薬品では、血液透析患者向けの経口そう痒症改善剤レミッチ[®]*の販売が堅調に推移したが、その他の医薬品は競合激化の影響を受けた。医療機器では、PMMA膜人工腎臓フィルトレーザー[®]、ポリスルホン膜人工腎臓トレスルホン[®]の販売が、国内向けに加え輸出も堅調だったが、透析装置は低調に推移。

* レミッチ[®]は鳥居薬品株式会社の登録商標です。

営業利益増減要因分析(第3四半期累計期間)



石化原料由来製品等とは、繊維、プラスチック・ケミカル、炭素繊維複合材料セグメントの合計値。

主要子会社収益状況(第3四半期累計期間)

億円

		売上高			営業利益		
		13年3月期 第3四半期累計 (4~12月)	14年3月期 第3四半期累計 (4~12月)	増減	13年3月期 第3四半期累計 (4~12月)	14年3月期 第3四半期累計 (4~12月)	増減
東レインターナショナル		3,655	4,280	+625	83	93	+10
東レエンジニアリング		590	485	-106	▲1	▲9	-9
東レ建設		331	299	-32	2	0	-2
東レフィルム加工		348	324	-24	20	8	-12
東レ・メディカル		295	300	+5	12	7	-5
TAK(韓国)		695	858	+163	98	96	-2
TPM(マレーシア)		428	522	+94	13	20	+7
在東南アジア・子会社 *1	繊維	662	877	+215	8	37	+29
	プラスチック・ケミカル	509	608	+99	32	27	-5
	その他	56	61	+5	3	3	+0
	計	1,227	1,547	+320	43	67	+24
在中国・子会社 *2	繊維	878	1,415	+537	91	133	+41
	プラスチック・ケミカル	413	501	+88	5	12	+7
	その他	92	133	+41	▲5	1	+6
	計	1,383	2,049	+666	92	146	+54
在外・フィルム子会社 *3	プラスチック・ケミカル	594	731	+137	59	39	-21
	情報通信材料・機器	372	478	+105	61	68	+6
	計	966	1,209	+242	121	106	-14

* 1: ITS、ETX、ISTEM、ACTEM、CENTEX、TPJ、PFR、PAB-G、TTS、LTX、TTTM、TPM 単純合計

* 2: TFNL、TSD、TJQ、TPN、TCH、TICH、THK-G、TPCH-G、TPPH/TPPZ、TFH/TFZ、TBMC、TMQ、TFCC 単純合計

* 3: TAK、PFR、TPA、TFE、TFH/TFZ、TAFK 単純合計

セグメント別営業利益 2Qvs3Q比較

億円

セグメント	営業利益 14年3月期2Q→ 14年3月期3Q ()内差異	増減益要因
繊維	139→174 (+35)	・機能性秋冬物の縫製品の出荷がピークを迎え好調に推移
プラスチック ・ケミカル	47→42 (-5)	・樹脂は、国内や中国で自動車向けを中心に堅調に推移 ・海外のフィルム事業は、競合激化による価格競争が継続
情報通信材料 ・機器	63→65 (+1)	・液晶パネル向け及びタッチパネル向けフィルムは、サプライチェーンの在庫調整の影響を受け低調に推移 ・新製品は順調に出荷拡大
炭素繊維 複合材料	45→42 (-3)	・航空宇宙、スポーツ、一般産業の各用途とも堅調に推移 ・品種構成の変化により減益
環境・エンジニアリング	4→5 (+1)	・水処理膜事業は逆浸透膜の中東地域向け出荷が増加し、堅調に推移
ライフサイエンス	12→30 (+18)	・人工腎臓は堅調に推移 ・医薬事業ではライセンス収入が増加
その他	5→5 (-1)	
調整額	▲53→▲56 (-3)	
連結	263→306 (+43)	



II. 2014年3月期連結業績見通し



2014年3月期連結業績見通し

億円

		13年3月期 実績	14年3月期 見通し	対前年同期比 増減	前回見通し	前回見通し との差異
売上高	上期	7,537	8,538	+1,000 (+13.3%)	8,538	—
	下期	8,386	9,762	+1,377 (+16.4%)	9,962	-200
	通期	15,923	18,300	+2,377 (+14.9%)	18,500	-200
営業利益	上期	367	443	+76 (+20.7%)	443	—
	下期	467	657	+190 (+40.6%)	757	-100
	通期	834	1,100	+266 (+31.8%)	1,200	-100
経常利益	上期	380	465	+85 (+22.3%)	465	—
	下期	502	635	+133 (+26.4%)	735	-100
	通期	882	1,100	+218 (+24.7%)	1,200	-100
当期純利益	上期	200	294	+94 (+46.8%)	294	—
	下期	285	306	+22 (+7.6%)	356	-50
	通期	485	600	+115 (+23.8%)	650	-50

1株当たり 当期純利益	上期	12.28円	18.03円
	下期	17.47円	18.80円
	通期	29.75円	36.83円
1株当たり 配当金	上期	5.00円	5.00円
	下期	5.00円	5.00円
	通期	10.00円	10.00円

備考：為替レート的前提は、100円/US\$（1月以降）
原油価格見通しは、110US\$/B
（DUBAI FOB）（1月以降）

セグメント別業績見通し (売上高/営業利益)

億円

	13年3月期 実績			14年3月期 見通し			対前年同期比 増減			前回見通し との差異	
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期	通期	
売上高	繊維	2,889	3,433	6,322	3,351	4,149	7,500	+462	+716	+1,179	—
	プラスチック・ケミカル	1,950	2,009	3,958	2,280	2,320	4,600	+330	+311	+642	—
	情報通信材料・機器	1,211	1,165	2,376	1,220	1,230	2,450	+8	+66	+74	-150
	炭素繊維複合材料	365	411	776	521	579	1,100	+155	+168	+324	—
	環境・エンジニアリング	781	1,002	1,784	831	1,069	1,900	+49	+67	+116	-50
	ライフサイエンス	270	296	566	266	334	600	-4	+38	+34	—
	その他	71	70	141	69	81	150	-2	+11	+9	—
	連結	7,537	8,386	15,923	8,538	9,762	18,300	+1,000	+1,377	+2,377	-200
営業利益	繊維	185	247	432	242	308	550	+56	+61	+118	—
	プラスチック・ケミカル	105	78	183	90	90	180	-15	+12	-3	-40
	情報通信材料・機器	96	133	230	108	142	250	+12	+9	+20	-60
	炭素繊維複合材料	42	31	73	71	89	160	+29	+58	+87	—
	環境・エンジニアリング	▲ 0	27	26	6	64	70	+7	+37	+44	—
	ライフサイエンス	30	45	75	19	51	70	-11	+7	-5	—
	その他	7	9	16	7	13	20	+0	+4	+4	—
	調整額	▲ 98	▲ 102	▲ 200	▲ 100	▲ 100	▲ 200	-2	+2	-0	—
連結	367	467	834	443	657	1,100	+76	+190	+266	-100	

セグメント別営業利益の前回見通しとの差異

億円

セグメント	通期営業利益 前回見通し→ 今回見通し ()内差異	要因
繊維	550→550 (±0)	・前回見通し通り
プラスチック ・ケミカル	220→180 (-40)	・国内では、原料価格上昇に対する価格転嫁の浸透に想定以上に時間がかかっている。 ・フィルムは、国内外ともに価格競争が継続。
情報通信材料 ・機器	310→250 (-60)	・大型テレビやスマートフォン向けの需要回復が前回想定より遅れることを見込む。
炭素繊維 複合材料	160→160 (±0)	・前回見通し通り
環境・エンジニアリング	70→70 (±0)	・前回見通し通り
ライフサイエンス	70→70 (±0)	・前回見通し通り
その他	20→20 (±0)	・前回見通し通り
調整額	▲200→▲200 (±0)	
連結	1,200→1,100 (-100)	

本資料中の2014年3月期の業績見通し及び事業計画についての記述は、現時点における将来の経済環境予想等の仮定に基づいています。

本資料において当社の将来の業績を保証するものではありません。